国語科学習指導案

[redacted]

１　日　時　令和４年11月１日（火）第３校時

２　学　年　第２学年[redacted]

３　単元名　テーマを立てて語り合おう
　　漢詩の風景「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」その他　光村図書

４　単元について
（１）単元観
　本単元は，中学校学習指導要領（平成 29 年告示）国語第２学年の〔思考力・判断力・表現力等〕Ｃ読むこと（１）オの指導事項「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりすること。」を受けて設定している。
　「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりする」力を育成するには，文章を読んで理解したこと，考えたことについて関連する知識や経験を想起し，理解したことや考えたことを具体的で明確なものにすることが必要である。さらに，他者の考えやその根拠，考えの道筋を知り，共感したり疑問をもったりなど，自分の考えと対比することが必要となる。
　本単元で扱う漢詩「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は，李白が旧友である孟浩然を見送るときのことを詠んだ送別詩である。五言絶句の詩で，前半では春霞がたなびくなか孟浩然が遠く離れた繁華な都である揚州へ下る情景が詠まれている。後半では，船に乗り長江を下っていく孟浩然の姿を，李白がじっと見つめる様子が詠まれている。
　別離の悲しみというテーマは，国や時代が違えど，私達に通じるものであり，共感できるものである。学習を通して，漢詩を身近に感じさせたい。一方，長江という大きな河を渡るということは，命がけとも言える旅であり，今生の別れと言えるものであった。現代の私達には電話やＳＮＳといった連絡手段があり，車や電車といった交通手段もある。別れという普遍性が現代の私達に共通するものではあるが，現代の私達の考える「別れ」とはその意味の深さが異なる。漢詩の学習を通して漢詩を身近に感じるとともに，「別れ」という視点から自らの経験と結び付け，私達人間の本質を考えることができるだろう。
　このように，「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は，「別れとはどんなものか」というテーマのもと，自分の考えを語らせることのできる漢詩である。生徒は，語る中で，他者の考えを知り，自分の考えと比較することが必然となるため，「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりする」力を育成することに適していると考える。

（２）生徒観
　本学級の生徒の多くは，どのような課題に対しても，真面目に一生懸命取り組み，授業中の反応においては男子を中心に，意欲的に発言する姿が見られる。また，提出物はほぼ全員が期限を守って提出することができる。既習の内容が概ね定着している生徒が多い一方で，授業での反応は良いが，学習内容の定着に大きな課題をもつ生徒もおり，学力にかなりの格差がある。
　今年度４月に行った進級テストでは，学級平均 60.5 点であった。大問得点率を見ると，漢字の読み書きでは 80%，次いで文学的文章の読解では 74%であり，基礎的な力は概ね身についている。一方，詩の鑑賞では 29%と他の大問に比べて著しく低くなっており，得点率０%が一割以上いた。このことから，情景に着目して暗示的に表現されている登場人物の心情を捉えたり，細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面，行動や心情などの変化を丁寧に捉える力，表現されていることを自分の知識や体験と結び付けながら考えたり吟味したりする力に課題があると考えられる。

今までの学習内容を振り返ると，漢文は１年時に学習した「故事成語・矛盾」以来になる。その時の学習では，漢文の読み方，また，中国の古典や故事からできた故事成語が現代の日本においても使われているということを学び，故事成語の４コマ漫画を作成した。漢文の読み方には難しさを感じている生徒も多くいたものの，故事成語を生活の中で使用し親しんでいる生徒が多数いた。

今年度１学期に学習した「短歌に親しむ」「短歌を味わう」の単元では，短歌をコンクールに応募するという単元のゴールのもと取り組んだ。短歌の創作のために，まず短歌は 31 音という短い詩であり，その中で伝えたい情景や心情が豊かに表現されていることを短歌の鑑賞をしながら学んだ。鑑賞の段階では，短歌の表現が頭の中で情景として結びつかない生徒が多く，一つ一つ問いながら確認していく必要があった。短歌の創作に入ると，意欲的に取り組み，伝えたいことを言葉にこだわりながら豊かに表現することができた。しかしながら，その短歌に込めた思いや言葉から表現したいことなどを他者に自分の言葉で説明することに課題があった。

今までの学習から，本学級は，学習内容の定着に課題のある生徒もいるものの，全体として表現することには意欲的に取り組むことができると言える。

（３）指導観

教材への理解や学習内容を定着させるとともに，表現することで自分の学びが深まることを実感させるために，単元を通して次の４点に重点を置きながら指導する。

一つ目は，音読である。毎時の学習の中で繰り返し訓読文での音読を取り入れる。学力格差のある実態において，何よりもまずは音読を大事にしたい。多くの生徒が表現することに意欲的に取り組むことができるため，漢文の音読を，知識だけでなく，実際に声に出しながら技能として定着させる。また，生徒の学習のスタートラインを，漢詩を音読できるという点に揃える。

二つ目は，解説や語注など，漢詩を読み深めるための手がかりの充実である。本教材は，現代語訳はないものの，解説によって情景や心情が明らかにされている。語注もある。それらを読むことに抵抗がある生徒もペアやグループ活動を通して解説や語注にしっかりと注目させたい。そのために，本時の目標の達成において重要な部分のみ自分たちでプリントにまとめることで焦点化・共有化させる。

三つ目は，デジタル機器の活用である。Chromebook や電子黒板を活用することで，視覚的に漢詩の内容の理解を促すとともに，「別れ」を考えさせるための意欲付けを行う。生徒たちにとって漢詩の言葉は知らないものばかりである。学習内容の定着に課題がある生徒についてはなおさらである。写真等，映像を見せることで学習への集中力を保持させると同時に，言葉への興味・関心を深めさせたい。また，生徒たちの意見や考えが即時に共有できる点において，効率よく学習を進めることができると考える。

四つ目は，考える時間の確保である。自分の考えを深めるためには，まず，自分の考えをもたないことには始まらない。単元を通し，個人思考の時間をしっかりと確保し，考えをもった上で他者と交流を行わせたい。そうすることで，自分の考えを表現でき，他者の表現にふれ，学びの深まりを実感できると考えられる。また，自分の考えをもつことが難しい場合には，他者の考えを参考にしながら自らの考えを言語化できるよう，グループ学習を効果的に取り入れる。表現することに意欲的に取り組むことができることを活かすため，目標達成のための視点や材料を多くそろえる。

５　単元の目標

○　現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して，古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。

〔知識及び技能〕（３）イ

○　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕Ｃ（１）オ

○　言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとすることができる。

「学びに向かう力，人間性等」

6　単元の評価規準

漢詩と他の詩を比較し，自分の思う「別れ」について考えたことを伝え合う活動を通した指導 【言語活動例Ｃ（２）イ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して，古典に表れたものの見方や考え方を知っている。　((３）イ)	・「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。　（Ｃ（１）オ）	・粘り強く，知識や経験と結び付けたり他者の考えと比較したりして，テーマについて自分の考えを述べるという学習課題に沿って自分の考えを書こうとしている。

7.〈評価の具体及び手立て〉

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】		「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立て
思考・判断・表現	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。	①本時で「元二安西…」を選択したワークシート 私は，別れとは「親しい人と離れることであり，相手を想い，相手と過ごした時間を想う」ということだと考える。 「黄鶴楼にて…」では，李白が孟浩然を見送る際の様子が次のような言葉で表現されている。「碧空に尽き」「唯見る」「天際に流るるを」，長江を渡る孟浩然の船を長い時間じっと見つめ続けている様子だ。李白はきっと，孟浩然の船を見つめながら，彼と過ごした時間を想い，別れることを悲しんでいるのだろう。 「元二安西…」では，王維が元二と別れる際の様子が次のような言葉で表現されている。「柳色新たなり」では，柳の環を送別の際に贈って旅人の帰還を祈る風習があったことから，王維が元二に対し，無事を願っている様子が分かる。「更に尽くせ一杯の酒」という言葉からは，酒を更に勧めることで「元二」との別れの時間を遅らせようとする，友との別れへの尽きない悲しみが感じられる。 二つの漢詩から，共通して，親しい相手と離れていること，そして，相手を大事に想っていることがよく分かる。 私は，別の中学校に通う小学校の同級生を思い出した。私は，離れることが悲しくて泣いてばかりいたが，同級生は，悲しい様子は見せず，「元気でね。」と抱きしめてくれた。抱きしめられたときに，彼女のあたたかい気持ちが伝わってきた。別れは悲しいけれど，お互いに想っていることを実感できたのだ。 だから，私は，別れとは，「親しい人と離れることであり，相手を想い，相手と過ごした時間を想う」ものであると考える。(620 字) ②本時で「さようなら」を選択したワークシート 私は今まで「別れ」について，ただ「悲しいこと」「さみしいこと」という考えを持っていたが，仲間との交流を通して，「別れ」とは，「人生を深めてくれるもの」であると考えることができた。 「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の詩の中で，李白が孟浩然を見送る様子が描かれている。「唯見る」とあるように孟浩然の乗った舟は広い長江にぽつんと漂い，李白は舟が青空のかなたに消えていくまで，黄鶴楼から見送った。この情景には，旧友孟浩然とはもう一生会えないかもしれないという李白の深い悲しみが込められている。 一方，谷川俊太郎の「さようなら」という詩では，自立を決意し旅立つ「別れ」が描かれている。「ぼくはもういかなきゃなんない」という表現からは，「別れ」への決意を感じる。「きっといちばんすきなものをみつける/みつけたらたいせつにして死ぬまでいきる」という表現からは，自分の人生を切り拓いていこうとする強い思いが感じられる。 私も，友達や家族との別れを経験したことがある。親しい人との別れは本当に悲しいものであるが，「別れ」ても心でつながり，そのつながりが自分の励みになり，成長させてくれることもある。李白も「さようなら」の語り手も，きっと「別れ」ても親しい人とつながり続けることで，それぞれの道で頑張ることができたのではないだろうか。 だから，私は「別れ」とは人生を深めてくれるものだと考える。 (593 字) ① 他者の考えと比較して，自分の考えの変化を明確に「別れ」について定義づけしている。 ② 「黄鶴楼にて…」から「別れ」について引用しながら情景や心情を述べている。 ③ 「離別の詩」から「別れ」について引用しながら情景や心情を述べている。 ④ 自分の知識や経験と結び付けて考えを述べている。	・ワークシート(学習内容)を確認させる。 ・学習した二つの「別れ」に共通しているものは何か考えさせる。 ・他者の意見や体験を参考にさせる。 ・左の作成例を提示し，参考にさせる。

８　指導と評価の計画（全５時間）

次	時	学　習　内　容	評　価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1	・漢詩がさまざまな人々に読まれてきたことを知る。 ・「春暁」などから，漢詩の形式や韻などに気付く。 ・単元の見通しをもつ。	(○)			〔知識・技能〕 生徒の様子 ・本時は，（３）イに基づいて学習状況を捉え指導のための評価を行うが，本単元の記録に残す評価には含めない。
二	2	・「『別れ』とはどんなものか」現時点での考えを書く。 ・「黄鶴楼にて…」を語注や現代語訳に注意して情景や心情を読み取る。 ・「黄鶴楼にて…」に描かれている「別れ」はどんなものかをまとめる。	○			〔知識・技能〕 ワークシート ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して，古典に表れたものの見方や考え方を知っている。
	3	・他の「別離の詩」に描かれた「別れ」を分析する。 ・「別離の詩」について，分析したことを交流する。 ・交流をふまえ，「別れ」とはどんなものか，定義づけする。	(○)		(○)	〔知識・技能〕〔主体的に学習に取り組む態度〕 ワークシート ・本時は，（３）イ及び〔主体的に学習に取り組む態度〕の評価規準に基づいて学習状況を捉え指導のための評価を行うが，本単元の記録に残す評価には含めない。
	4	・前時で定義した「別れ」について，自分の経験を振り返り，交流する。 ・今までの学習をふまえ，「別れ」とはどんなものか，自分の考えを文章にまとめる。		○	○	〔主体的に学習に取り組む態度〕 生徒の様子・ワークシート ・粘り強く，知識や経験と結び付けたり他者の考えと比較したりして，テーマについて自分の考えを述べるという学習課題に沿って自分の考えを書こうとしている。 〔思考・判断・表現〕 ワークシート ・「読むこと」において，文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。
三	5	・学習内容を生かして，「春望」を読み，自分の考えを交流する。 ・学習を振り返る。		(○)		〔思考・判断・表現〕 生徒の様子・振り返り ・本時は，（１）オに基づいて学習状況を捉え指導のための評価を行うが，本単元の記録に残す評価には含めない。

9　本時の学習

（1）本時の目標　「黄鶴楼にて…」と，もう一つ選択した離別の詩の二つの詩を踏まえ，「別れ」とはどのようなものか自分の考えをもち，「別れとは〇〇である。」と簡潔にまとめることができる。

（2）学習の展開

学習活動	指導上の留意点◇ 「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て◆	評価規準と評価方法
・「黄鶴楼にて…」に描かれた「別れ」を確認する。	◇「黄鶴楼にて…」の音読をする。 ◆前時のワークシートを確認するよう助言する。 ◆電子黒板で視覚的にポイントを振り返ることができるように用意する。	
・本時のめあてを確認する。	◇単元のゴールを確認し，複数の詩から「別れ」について考えることを示し，「黄鶴楼にて…」以外の「別離の詩」として「元二…」と「さようなら」の詩を紹介する。	
二つの詩をふまえ，「別れ」とはどんなものか自分の考えをもつことができる。		
・「別離の詩」二つから各自で一つ選び，選んだ詩に描かれている「別れ」を分析する。 （個人→グループ）	◇「別離の詩」二つを配付する。配付プリントには，現代語訳や語注といった考えるためのヒントを載せる。 ◇個人でどちらを分析するか自己決定させる。 ◆どちらを分析するのか迷っている場合は，「黄鶴楼にて…」と「元二の安西に…」の構成がよく似ていることをふまえ，同じように分析してみるよう促す。 ◆「黄鶴楼にて…」のまとめ(ワークシート)を参考にするよう促す。 ◇時間をしっかりと確保し，様々な視点で共通点や相違点をとりあげられるようにする。 ◇同じ「別離の詩」を選んだ生徒同士でグループを作り，交流をすることで，分析を深めさせる。	〔知識・技能〕 〔主体的に学習に取り組む態度〕 ワークシート ・本時は，（3）イ及び〔主体的に学習に取り組む態度〕の評価規準に基づいて学習状況を捉え指導のための評価を行うが，本単元の記録に残す評価には含めない。
・分析した内容を交流する。 （グループ→全体）	◇いくつかのグループに発表させる。 ◆発表内容のポイントは電子黒板に教員がペンでラインを引いたりメモをしたりする。 ◆電子黒板のラインやメモを自分のワークシートに記入するよう促す。	
・分析したことをふまえ，「別れ」とは〇〇である」と自分の考えを書く。	◇発表(分析内容)について自分は「別れ」とはどんなものかを考え，ワークシートに記入する。 ◆「黄鶴楼にて…」と本時の「別離の詩」を比較し，ワークシートに指差ししながら，「別れ」について共通する点を考えるように促す。	
・本時の振り返りをする。	◇紹介したものに限らず，さまざまな詩や文章で「別れ」を考えることができることを伝える。 ◇次時は自分の知識や経験と結び付け，「別れ」について文章にまとめていくことを予告する。	

（３）板書計画

漢詩の風景
～テーマを立てて語り合おう～

めあて

二つの詩をふまえ、「別れ」とはどのようなものか、自分の考えをもつことができる。

①

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る　李白

★旅立つ友人の舟をじっと見つめる李白
大きな悲しみと再会への願い

②「別れ」の詩…どちらか一つ選ぼう

A　元二の安西に使ひするを送る　王維

B「さようなら」　谷川　俊太郎

「別れ」とはどのようなもの？

※詩は電子黒板にて提示

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

李白

故人西辞黄鶴楼
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽
唯見長江天際流

【使用資料】

◆黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る　李白

故人西のかた　黄鶴楼を辞し
煙花三月　揚州に下る
孤帆の遠影　碧空に尽き
唯見る長江の　天際に流るるを

現代語訳
親しい友の孟浩然は，この西の地，武昌の黄鶴楼で別れを告げ，かすみにけむる花の咲く３月，揚州へと舟で下ってゆく。
楼上から眺めると，ぽつんと浮かんだ友の乗る舟の帆影が青い空のかなたに消えてゆき，あとには長江の水が空の果てま

◇離別の詩

①元二の安西に使ひするを送る　王維

渭城の朝雨軽塵を浥し
客舎青青柳色新たなり
君に勧む更に尽くせ一杯の酒
西のかた陽関を出づれば故人無からん

現代語訳（元二が安西へ使者として向かうのを送る）
渭城の朝雨が細かい塵をしめらせている
旅館の周りの青青とした柳も雨に濡れいっそう鮮やかに映えている
さあ友よさらにもう一杯酒を飲み干したまえ
西方の陽関を越えればもう親しい人もいないだろうから

②さようなら　谷川俊太郎　（底本：谷川俊太郎詩選集２　集英社文庫）

詩「さようなら」本文（略）